




















































**【AADC-0140 (colorectal)】 bevacizumab + Capecitabin 療法**  
**(ベバシズマブの点滴とカペシタピン内服を用いた療法です)**

■ **スケジュール** 3週で1サイクル 22日目が次のクールの day1

ベバシズマブの点滴は1日目。カペシタピンは、点滴日の夕食後から2週間服用して1週間休薬します。  
**保湿剤は3週間ずっと塗り続けます。**

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
注																						
朝																休薬						
夕															休薬							
塗																						

■ **治療背景**

Capecitabine は経口のフツ化ピリミジン系薬剤であり、消化管から未変化体のまま吸収され、肝臓内と腫瘍内で初めて 5-FU に変換され、治療効果を発揮する。そのため、経口フツ化ピリミジン系薬剤である S-1 と比較して、消化管毒性は軽い。Capecitabine 単独に Bevacizumab (BV) を上乗せする効果を検証した第 III 相試験が報告され、PFS の上乗せ効果を示した。大腸癌診療ガイドラインでは、高齢者や臓器機能障害を有し、強力な治療が適応とならない患者に対して、bevacizumab+Capecitabine レジメンが推奨されている。

参照 [https://www.gi-cancer.net/gi/regimen/regimen\\_37.htm](https://www.gi-cancer.net/gi/regimen/regimen_37.htm)

■ **副作用情報** (Lancet Oncol. 2013 Oct;14(11):1077-1085.)

**Grade3 以上** :手足症候群 (16%)、下痢 (7%)、静脈血栓塞栓性イベント (8%)      **All Grade**:出血 (25%)

■ **支持療法** : 抗がん剤治療による有害事象に対応する **基本的な処方** です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

点滴 <b>当日</b> から使用する薬	ユベラ軟膏 1日2回塗布	カペシタピンによる手足症候群に対して、点滴当日夕から塗布します。保湿がとても大切です。
----------------------	--------------	---

ユベラ軟膏を塗布する実際の場面を想定すると、チューブ形態だと追加分取り出し時チューブの周りが滑るため壺タイプの容器のほうが、塗布作業はしやすい。

■ **服薬指導のポイント**

＜ベバシズマブ投与により＞

**血圧上昇**

血圧が上がってくる可能性があるため、家庭内血圧測定（毎日決まった時間）をおすすめる。  
 収縮期血圧 180mmHg 以上、拡張期血圧 110mmHg 以上の場合は、病院に連絡する。

**消化管穿孔**

発現頻度は 2%未満である。**投与開始 3ヶ月以内に消化管穿孔が発生するケース** が最も多いので **今まで感じたことのない激しい腹痛の場合は病院へ連絡する**。

**血栓症**

血栓症の可能性あり。呂律がまわらない、下肢浮腫疼痛変色、息苦しさ継続するなどあれば病院へ連絡。

**出血**

鼻血、歯肉、膣などからの出血が見られる場合がある。  
 鼻血を訴えるかたが多い。ほとんどの症例で軽度。15分以上続くようなら病院へ連絡する。鼻血がよくでるとい患者さんには、ティッシュなどを鼻につめるとかえって静脈を傷つけてしまうので出てきた血を吸い取るように外からティッシュを当てる、鼻の付け根を 5～10分程度強く押さえるといったアドバイスがよい。

**創傷治癒遅延**

手術前後（手術の程度によりですが）、4週間はベバシズマブの投与を避けるとされている。

## <カペシタビン投与により>

### 下痢

カペシタビン起因の下痢が起きる可能性がある。下痢は脱水を招くおそれがある。下痢により水分だけでなく電解質も喪失するので、**電解質含有の水分を摂る**よう伝える。**発熱口内炎を伴うような場合は病院に連絡する。**具体的なアドバイスとしては下痢により体に必要な電解質もでていってしまい、例えば低カリウムを起こすことがある。電解質を含んだ飲料水を排泄のたびコップ1杯以上とる。カリウムの多い食品としてはバナナなどがある。食事の一回量を減らし、回数を増やす。食事量が多いほど、胃結腸反射が起き下痢を誘発しやすいので、回数を多く取る方法に切り替える。

下痢時、避けたほうがよい食品としては、カフェイン、アルコール、炭酸飲料、ナッツ類（ナッツは非常に油分を多く含んでいる。多すぎる油分が腸に入ると、水分と油分が分離してしまい下痢を誘発する）、全粒粉食品、ふすま製品、揚げ物を含む高脂肪食品などは、消化器系に刺激を与える可能性があるため、摂取を控える。食事の温度も重要。非常に熱かったり、また冷たかったりする食べ物は、下痢の要因となる。

### 手足症候群

手足症候群（手掌・足底発赤知覚不全症候群）はカペシタビン投与によるもので、患者自身でできることとして保湿が非常に重要となる。

症状は手のひらや足の裏がチクチクピリピリし、腫れたり変色し、悪化すると痛みを伴い生活に支障がでる。足は塗り忘れることが多いので、足から保湿剤を塗るように習慣づける。足から塗って、手にも塗ることでより手に保湿剤を多く塗布することが期待できる。手の平、足の裏は薬が非常に入りにくいので、ちょちょちよっと塗るのではなく、じっくり塗り込むようにする。各部位1分程度かけていただくとうよい。1日1回たっぷり塗るよりも1日2回適量を塗布のほうが保湿効果が高いという報告がある。

カペシタビンを飲み始めるとともにユベラ軟膏も開始する。

### **カペシタビンの休薬期間中も保湿剤は塗り続ける。**

何も症状がないのに塗布することに抵抗感がある、あるいは塗るのが面倒くさそうな患者には、手足症候群の症状がでた場合に困ることを知ってもらうとうよい。

#### 痛くて持てない、さわれない

- お箸や食器が痛くて持てないから、ご飯がすすまなくなる
- 日々のお料理が出来なくなる
- 文字が書けなくなる
- ドアノブもまわせない
- 本をめくるのにも苦慮する



#### 痛くて歩くのに支障がでる

- 日課の散歩ができない
- お買い物に行けない
- ゆっくりとしか動けない
- 来客が来てもでられない
- 家族にやってもらうことが多くなってしまう



### 悪心・嘔吐

食欲がないときのアドバイスとしては、無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べることで、揚げ物・煮物・煮魚や焼き魚などは避けることで、嘔気を軽減することもあつようです。また料理は冷やしたり、冷まして食べることで温かいものより、においが軽減して食べやすくなることあつます。

### 口内炎

口内炎には、薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髓機能の抑制（骨髓抑制）に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つあつます。抗がん剤の投与後、おおよそ5日目から10日目ころに口内炎が発生しやすくなります。骨髓の機能が低下時期に口内炎がかさなると、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなります。お口を清潔に保つことように指導する。

相澤病院では、抗がん剤治療中の患者さんようのうがい薬を院内調製しているため、中にはそれを用いている患者さんもいる